どうして排斥は起こるか
（20251108）

障がい者→違うことでのけ者にされている

障がい者雇用ということ→周りから遠慮されている

日本人ファースト→大谷が活躍→同じ日本人として誇らしく思う

隣の子ども、町内会→必ずしもポジティブにはとらえられない

どういう立ち位置かにより集団が変わってくる

のけ者→排斥→いじめ

仲間外れを恐れる

仲良しグループをつくる→空気に合わせる

中心は自分。合わなければ他のところへ行けばいい

グループの中に入って行けない

肌の色が違う、言葉が違う→異質

お互いに理解できない

人間は元々一人一人が異質なもの

異質→排斥される、とけこめない

同じ言葉でも理解できているか？

お互いに理解できるか？

動物と意を通ずることもある（C.W.ニコル氏）

言葉だけでなく、身体、音などを通じて理解し分かり合う

理解→相手に合わせるようにふるまう？

鈴木俊貴氏『僕には鳥の言葉がわかる』

自己を見つめる→理解は難しい、許す

比較優位に立とうとする→生存本能

教育のやり方→競争→画一化

妥協点を見つけられたら

差別（優れている、劣る）→違い

自由→生きたい生き方を選ぶ

外国人排斥

産業によっては外国人労働者がいないと成り立たない

日本人の生活にとって外国人労働者は不可欠

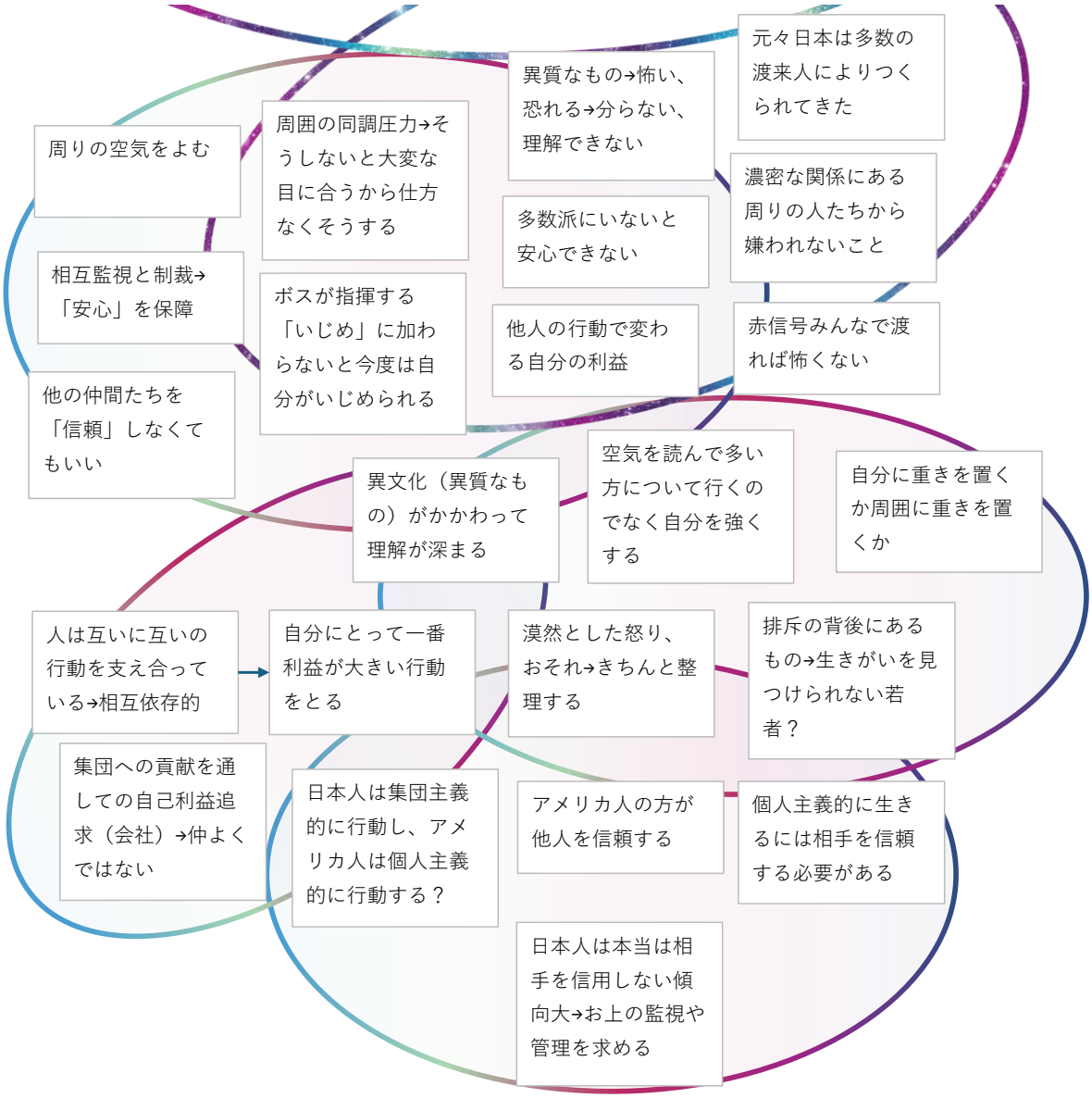
不動産取得や犯罪、不法行為の問題

最近日本に外国人が多数移住

海外（ブラジル）の生活→個人を主張しないと生きられない→「日本」が通用しない

帰属意識→ここだったら生きられる→日本がいい

日本は空気を読んで和やかにいられる


元々日本は多数の渡来人によりつくられてきた
異質なもの→怖い、恐れる→分らない、理解できない
周囲の同調圧力→そうしないと大変な目に合うから仕方なくそうする
周りの空気をよむ
濃密な関係にある周りの人たちから嫌われないこと
多数派にいないと安心できない
相互監視と制裁→「安心」を保障
ボスが指揮する「いじめ」に加わらないと今度は自分がいじめられる
他人の行動で変わる自分の利益
赤信号みんなで渡れば怖くない
他の仲間たちを「信頼」しなくてもいい
異文化（異質なもの）がかかわって理解が深まる
空気を読んで多い方について行くのでなく自分を強くする
自分に重きを置くか周囲に重きを置くか
人は互いに互いの行動を支え合っている→相互依存的
自分にとって一番利益が大きい行動をとる
漠然とした怒り、おそれ→きちんと整理する
排斥の背後にあるもの→生きがいを見つけられない若者？
集団への貢献を通しての自己利益追求（会社）→仲よくではない
日本人は集団主義的に行動し、アメリカ人は個人主義的に行動する？
アメリカ人の方が他人を信頼する
個人主義的に生きるには相手を信頼する必要がある
日本人は本当は相手を信用しない傾向大→お上の監視や管理を求める